

老化は“疾患”に？ 抗老化治療の これから

あらゆる疾患と「老化」との関連性が
説かれるいま。老化を疾患だとして治
療することができるようになったら、
世界はどのように変わっていくのか。
近畿大学アンチエイジングセンター
副センター長を務める近畿大学医学
部の山田秀和先生に、抗老化治療の最
新動向について語っていただきます。

WHOにより 「老化」の定義が見直された

2019年、WHO（世界保健機構）がICD-11（International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems：国際疾病分類の第11回改訂版）を公表しました。現行のICD-10への改訂がなされた1990年から約30年ぶりの改訂となり、より現代社会や医療現場に即した内容となることが期待されます。

医師の皆さんはご存じかと思いますが、ICDとは国際的に統一された疾病・死因の分類のことをいいます。医療機関ではカルテの記載にICDで定められた診断名やコードが用いられ、行政機関では統計調査などに活用されています。世界中の公衆衛生機関から集められたICDの情報をもとにどのような疾患が増えているのかを把握・検討し、産業や医療の予算配分決定の材料としているのです。

残念ながら、現行のICD-10には「老化」という概念は存在しませんで



近畿大学
山田秀和先生

Aging is a disease

加齢が様々な観点からWHOの疾患の定義に適合するという結論に達する。

1. 低悪性度の全身性炎症、複製性細胞老化、プロテオスタシス障害、免疫老化、ミトコンドリア機能障害、繊維化傾向の増加、インスリン抵抗性、体組成の変化、ホルモン変化など、老化の背後にあるいくつかの重要な**病理学的プロセスが特定**。
2. ライフスタイルの変更や承認された薬物やサプリメントなど、いくつかの**介入が効果的**であることが証明。

Daria Khaltourina, Yuri Matveyev, Aleksey Alekseev, Franco Cortese, and Anca Iovita. 2020. "Aging Fits the Disease Criteria of the International Classification of Diseases" Mechanisms of Aging and Development 189 (July): 111230.

XT9T; 老化関連 ARD

した。しかし、がんやアルツハイマー、心筋梗塞や脳卒中などの心血管イベントの多くが、老化により引き起こされると考えられています。老化関連疾患が死因に大きく関与している事実があるにも関わらず、「老化」を示すコードがICD内に存在しないのは問題な
あたり見直しがなされました。

今回のICD改定により、疾病分類

コードを補助する役割をもつ「エクステンションコード（extension code）」が新設され、そのうちのひとつに「老化関連の（aging-related）」という意味をもつ「XT9T」というコードが作られました。近年老化を病気の一種だと結論付ける研究発表が続いており、加齢や老化についての記載ができるようになったことはとても大きな進歩といえるでしょう。

たとえば現在我々を苦しめている

COVID-19でも、亡くなる方の多くは65歳以上だと言われています。2022年にICD-11が発効されれば、この状況を「XT9T COVID-19」として報告できるようになるのです。同様の報告が多く集まれば、COVID-19と高齢の方の死亡と

の因果関係調査に大きな予算を投じる可能性もでてきます。現在、私たちはそうした大きな時代の転換点にいると考えられるわけです。